

復興の歩みを進める、いわて三陸の姿を紹介します。

復興キラリ

キャッセン大船渡（大船渡市）



商業施設「キャッセン大船渡」の店主の皆さんと運営スタッフの皆さん。エリアマネジメントディレクターの中村純代(すみよ)さん(後ろから2列目中央)は「店主の皆さんをサポートし、よりキャッセンを盛り上げていきたいですね」と語ります。

店主たちが協力しながら 魅力あふれる新たなまちへ！

かつては商店が立ち並び、大きなにぎわいを見せていた大船渡駅周辺地区。東日本大震災津波で甚大な被害を受けましたが、震災後、復興をリードする中心市街地として、ホテル、商業施設、観光型菓子工房、ショッピングセンターなどが整備されました。

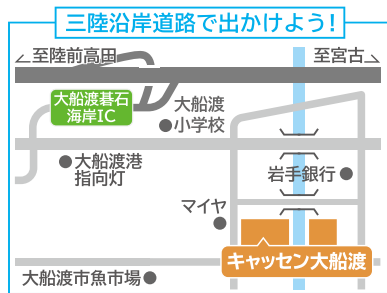
この市街地を盛り上げる重要な存在の一つが、2017年4月にオープンした商業施設「キャッセン大船渡」。仮設商店街で頑張ってきたお店をはじめ、30以上の店舗が集い、個性豊かな店づくりとおもてなしで新たな賑わいを生み出しています。

施設を運営するのは、官民協働のまちづくり会社「株式会社キャッセン大船渡」です。多彩な誘客イベントや、若者を巻き込んだまちづくり大学の開催、震災を伝承するゲームの開発など、店主らと協力してさまざまな取り組みを行っています。

「自分たちの手でまちを盛り上げよう」という意識の高まりから、店主や市民による自主イベントも多く、県内のみならず県外からも多くの人が訪れます。商いだけでなく、みんなの「夢を実現する場」として、新たな活気をまち全体に広げています。



7月には防災意識を高めるイベントが開催され、多くの人で賑わいました。



[問] キャッセン大船渡 0192-22-7910

震災の教訓を忘れない！



「防災×観光」で震災を伝える新たなゲームを開発！

株式会社キャッセン大船渡は、街を歩きながら津波避難を疑似体験する防災観光アドベンチャーゲーム「あの日～大船渡からの贈り物」(※)を開発しました。このゲームは、震災を経験していない若い世代や観光客に、震災の教訓を伝えたいという思いで作られました。

市内に設置された二次元バーコードボックスを探してスマートフォンをかざすと、震災の経験を伝える市民の音声「生きる知恵」が流れるほか、避難行動を問いかけるクイズ「わかれ道」が出題されます。これらを探しながら、ゴールとなる高台までの到達時間を競います。

街歩きを楽しみながら震災を学べますので、ぜひ挑戦してみてください。

※監修：東北大学災害科学国際研究所 柴山明寛(しばやまあきひろ) 准教授